

◎増減が目立った大学

□学部新設や新入試方式拡大で目立つ増加

私立大 545 大学の一般選抜の志願者数集計において、志願者数の増加数、減少数がそれぞれ 3,000 人以上の大学について見ていきます。

増加した大学では、増加数が最も多かったのは千葉工業大の 30,367 人(128)、次いで近畿大の 21,341 人(116)、法政大が 17,387 人(119)で、1 万人以上の増加は 3 大学でした。3,000 人以上の増加まで含めると 13 大学で前年度 3 大学から 10 大学に増えました。千葉工業大は、理・工系への堅調な人気に支えられる中で、前年度に引き続き 2022 年度入試でもコロナ禍による経済環境の悪化への対策として共通テスト利用方式の受験料を全額免除にし、共通テスト利用方式(149)は全ての学部で 2 年連続大幅増加しました。さらに新規実施の共通テスト併用の〈S A 日程〉が約 1 万 4 千人の志願者数となったことで、大学全体の志願者数は 3 万人以上の増加となりました。近畿大は新設の情報で志願者数が 1 万 2 千人以上となり、理系 9 学部合計(121)が大幅増加、法政大は共通テストの平均点ダウンで一般方式への駆け込み出願があったことで、一般方式(121)が大幅増加しました。東洋大(109)は英語外部試験の利用を拡大した共通テスト利用方式が 11,299 人(134)の大幅増加でした。麗澤大(244)はコロナ禍への対応として、一般方式は 2 出願目からの入学検定料を無料に、共通テスト利用方式はすべての入学検定料を無料にしたことで、一般方式、共通テスト利用方式いずれも大幅増加し、特に共通テスト利用方式(324)は 3 倍以上の激増となりました。大阪経済法科大(234)は、創立 50 周年事業の一環として入学検定料を一律 1 万円、併願検定料を無料としたことで倍増以上の大幅増加となりました。関西学院大(115)は、一般方式の全学部日程において 14 学部全てで 2 日間の入試実施や、共通テスト利用方式で新規方式を実施したことで大幅増加しました。また、東北学院大(132)も、全学部型 A 日程、B 日程でそれぞれ最大 3 学科まで併願可能になったこと、併願の入学検定料も 5 割近い減額をしたことで大幅増加しました。このように、2022 年度入試もコロナ禍への不安が長引く中、受験生目線で受験機会を増やしたり、検定料負担の軽減を図った大学での増加が目立ちました。神奈川大(124)は、前年度コロナ禍への対応として 2 月に実施した〈給費生〉を 12 月実施に戻した影響が大きく大幅増加しました。名城大(110)は新設の情報工で志願者数 4,000 人以上となったほか、一般方式の新規方式実施で増加しました。青山学院大(119)、立命館大(106)、東京理科大(109)は前年度減少の反動が見られました。

減少している大学では、減少数が最も多かったのは中央大の 13,739 人(83)、次いで明星大の 7,299 人(65)、摂南大の 5,217 人(79)で、5,000 人以上の減少は前年度の 26 大学からわずか 3 大学に減少し、3,000 人以上の減少まで含めても 11 大学に留まりました。中央大は共通テスト利用方式や英語外部試験利用方式で入学検定料を値上げしたことが、コロナ禍の中で景気回復が見通せない中では大きく影響し、この方式の志願者数は 13,334 人(60)の大幅減少となりました。明星大(65)は、入試方式が減ったことによる併願数の減少が影響し、一般方式(67)、共通テスト利用方式(63)ともに大幅減少となりました。摂南大は、共通テスト利用方式における併願時の入学検定料が、出願件数ごとに加算されることになった影響で、共通テスト利用方式は 3,924 人(58)の大幅減少となりました。

〔3,000人以上増加した大学〕

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2022年度	2021年度	
千葉工業大	+30,367	128	139,074	108,707	前年度に引き続きコロナ禍における経済環境悪化への対策として、受験料を全額免除にした共通テスト利用方式(149)が大幅増加。一般方式(107)はやや増加。志願者数は3年連続10万人を上回った。
近畿大	+21,341	116	157,171	135,830	大学全体(116)では4年ぶりの増加。新設の情報で志願者数1万2千人以上となり、理系9学部合計(121)の大幅増加、文系6学部(111)も増加で、志願者数は15万人を上回り、9年連続全国最多となった。
法政大	+17,387	119	108,343	90,956	共通テストの難化による平均点ダウンで一般方式への駆け込み出願があったことで一般方式(121)は大幅増加、共通テスト利用方式(114)も増加。学部別では、15学部中12学部で増加。
東洋大	+8,468	109	98,276	89,808	共通テスト利用方式(134)は、前期の全ての学部で英語外部試験の利用が可能になり、大幅増加。一般方式(95)はやや減少。出願締め切り近くに出願者数を伸ばしたが、10万人には届かなかった。
青山学院大	+7,716	119	47,839	40,123	前年度共通テスト併用方式導入を中心とした大きな入試変更への敬遠から志願者数は大きく減少したが、これに対する反動が見られた。一般方式(123)、共通テスト利用方式(116)といずれも大幅増加。
麗澤大	+6,579	244	11,150	4,571	前年度の大幅減少の反動に加え、コロナ禍への対応として一般方式(137)は2出願目からの入学検定料を無料としたことで大幅増加、共通テスト利用方式(324)はすべての入学検定料を無料にしたことで3倍以上の激増。
大阪経済法科大	+6,502	234	11,365	4,863	創立50周年事業の一環として、2022年度の全ての入試の入学検定料を一律1万円、併願検定料は無料とした影響で、一般方式(238)、共通テスト利用方式(226)ともに倍増以上の大幅増加。
神奈川大	+5,774	124	30,025	24,251	一般方式(140)が大幅増加、前年度コロナ化対策で2月に実施した〈給費生〉を元の12月実施に戻した影響が大きかった。新設の建築を除いた8学部中7学部で増加。学部改組で旧(建築)が学部へ移行した工(101)は、旧(建築)を除くと(124)の大幅増加。
関西学院大	+5,120	115	38,737	33,617	一般方式(114)は全学部日程で入試機会の増加により増加、共通テスト利用方式(118)は新規方式実施の影響で、大幅増加。国際(97)はやや減少で5年連続減少だが、その他の13学部は増加。
立命館大	+4,823	106	88,335	83,512	一般方式(107)、共通テスト利用方式(103)のいずれもやや増加だが、志願者数は2年連続で9万人を下回った。15学部中11学部で増加、特に薬(154)は5割以上の大幅増加。
東京理科大	+4,451	109	53,752	49,301	理工系への人気の高まりの中で、大学全体(109)では3年ぶりの増加。前年度唯一増加の先進工(79)は大幅減少だが、その他の6学部が増加、方式別でも4方式すべて増加と、前年度と対照的。
名城大	+3,669	110	39,496	35,827	新設の情報工が志願者数4,000人以上となり、大学全体(110)では増加だが、情報工を除くと(98)のやや減少。一般方式(115)は傾斜配点型K方式の新規実施で大幅増加。
東北学院大	+3,119	132	13,010	9,891	一般方式(145)は、2年連続減少の反動に加え全学部型A、B日程でそれぞれ最大3学科まで併願が可能になったことと併願の入学検定料減額の影響が大きく大幅増加。共通テスト利用方式(109)は増加で2年連続増加。

[3,000人以上減少した大学]

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2022年度	2021年度	
中央大	-13,739	83	64,795	78,534	入学検定料の特例措置を廃止したことで、特に影響を受けた共通テスト利用方式(60)が大幅減少、一般方式(99)は微減。
明星大	-7,299	65	13,719	21,018	一般方式(67)、共通テスト利用方式(63)のいずれも減少率30%以上の大幅減少。一般方式は入試方式削減の影響、共通テスト利用方式は共通テスト受験後の出願が可能なおことから平均点ダウンの影響を受けた。
摂南大	-5,217	79	20,075	25,292	共通テスト利用方式における併願時の入学検定料が、出願件数ごとに加算されることになり、共通テスト利用方式(58)は大幅減少。農(66)は、30%以上の大幅減少で2020年度新設以降大幅減少が続いている。
武蔵野大	-4,423	87	30,136	34,559	一般方式(83)は大幅減少、共通テスト利用方式(94)はやや減少。文(111)のみ増加、その他の11学科は減少。特に新設2年目のアントレプレナーシップ(70)は大幅減少。
日本大	-4,178	96	93,770	97,948	大学全体(96)ではやや減少で、志願者数は2年連続10万人を下回った。松戸歯(145)、歯(130)は<N2期>方式の新規実施と、2年連続減少の反動で大幅増加。
東京都市大	-3,820	86	23,276	27,096	一般方式(104)はやや増加だが、共通テスト利用方式(67)の大幅減少が影響し、大学全体(86)は2年連続減少。
上智大	-3,767	86	22,503	26,270	前年度から一般方式を<TEAP>のみに変更したが、<TEAP>(95)で2年連続やや減少。実施2年目の共通テスト利用方式(83)は大幅減少。
大東文化大	-3,473	84	18,933	22,406	大学全体(84)では4年連続減少。一般方式(86)は減少、共通テスト利用方式(83)は大幅減少。<共テ・前期>(68)は大幅減少だが、入試区分変更で募集人員も103人(68)減少したため志願倍率は24.0→23.8倍で競争はほぼ同じ。
関東学院大	-3,287	80	12,862	16,149	共通テスト利用方式(77)、一般方式(81)といずれも大幅減少。共通テストの難化で事後出願への敬遠傾向が影響。
京都産業大	-3,190	92	37,735	40,925	大学全体(92)では減少で、2年連続減少。志願者数は4万人を下回った。外国語(76)は、コロナ禍による系統への低人気に影響し2年連続大幅減少。
桜美林大	-3,032	81	12,651	15,683	大学全体(81)では大幅減少で3年連続減少。一般方式(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、共通テスト利用方式(91)は減少で3年連続減少。芸術文化(103)はやや増加で6学部中唯一の増加。